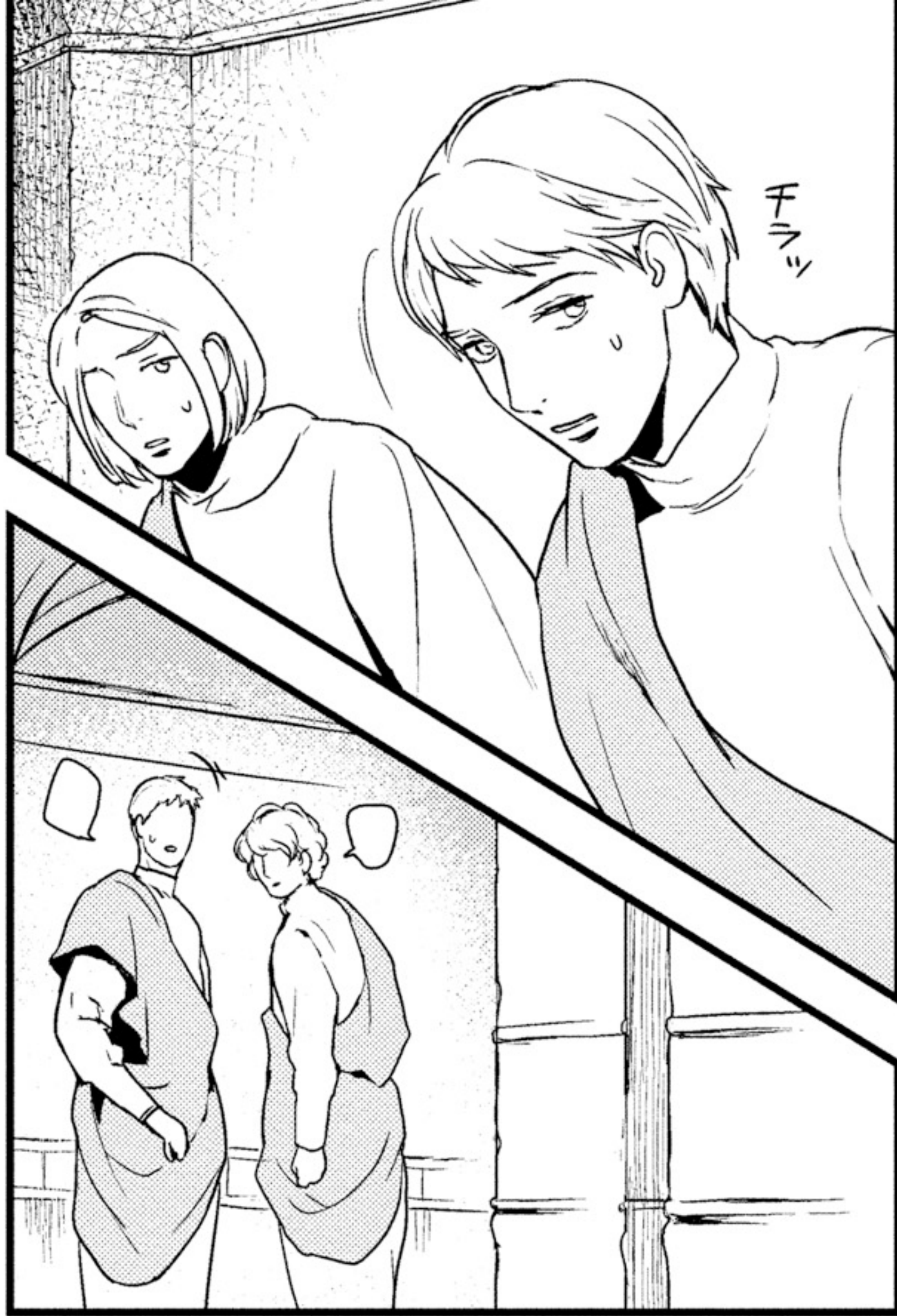




いやだ!

いやだ

ギョッ



チンッ



どうしよう...

考えていることが
全部声になって
しまうなんて

こんなの
いやだ!



見られてる...



気にしないなんて
無理です!

頭の中を
見られているのと
同じなんですよ

私が子どもを
抱き上げているのが
珍しいからだ

いちいち
気にするな



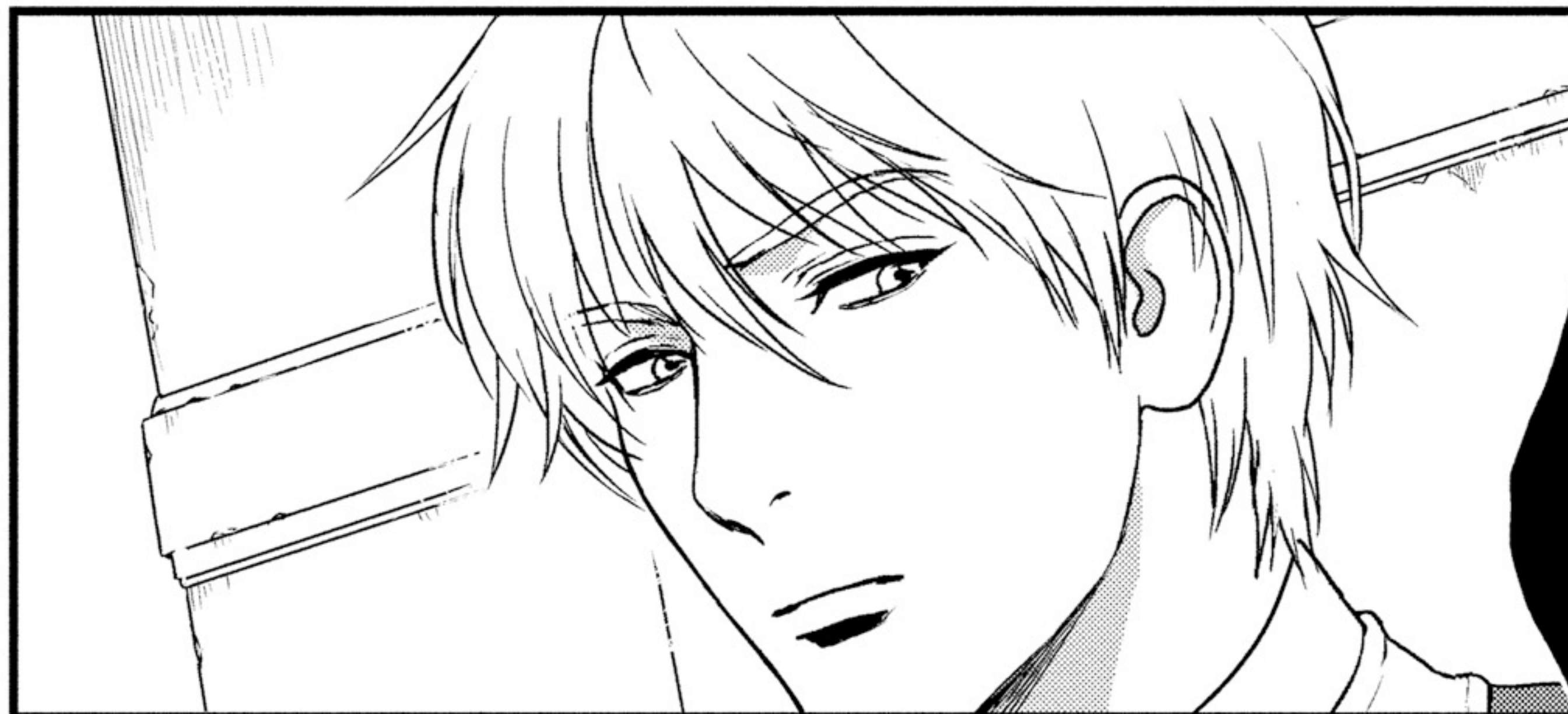
何も顔を
そむけなくたって…



はあ…

怒鳴るな
余計にうるさい

ズ
ツ…



それに

別にくちから出てる
わけじゃないんだから
耳を離したって
意味ないのに…



ズ
ツ…

確かにそうだな



…ほう

あ…



おまえの言う通り
顔を離すだけでは
意味がない



ならば
声の原因自体から
遠ざかることにしよう



その声の
大きさでは

青の宮殿から出ない限り
どこにいても
聞こえそうだが

フタ
フタ



待って
行かないで



ちがう
今のは――



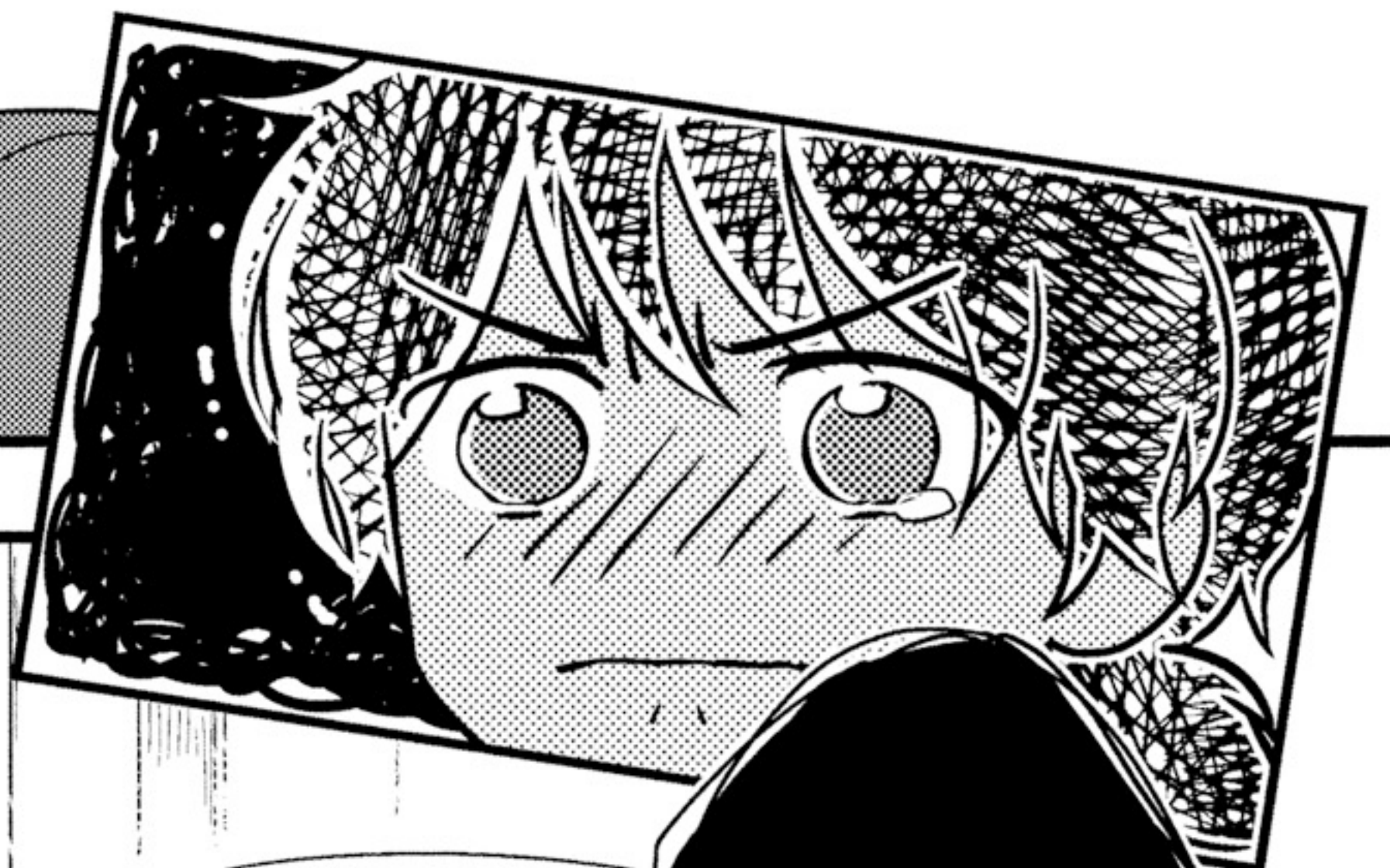
ひとりにならずに





来い

どうしようっ
思ったことが
全部聞こえちゃう...



ジュッ



きりりっ

そう大きな声で
言わなくても
聞こえている



?

ええと……
どこへ
行くんですか？



……抱き上げて
歩くほうが
恥ずかしいのに

……黙っているから
考えを読まれるんじや
ないのか

なんでもいいから
着くまで話している



離せ
みっともない

ほっ



うるさいな

あ……ほんとだ
ずっと話しかけてれば
しゃべるのと
変わらないんだ

あの
覚えたばかりの
星の物語があるので
それを話しても
いいですか？



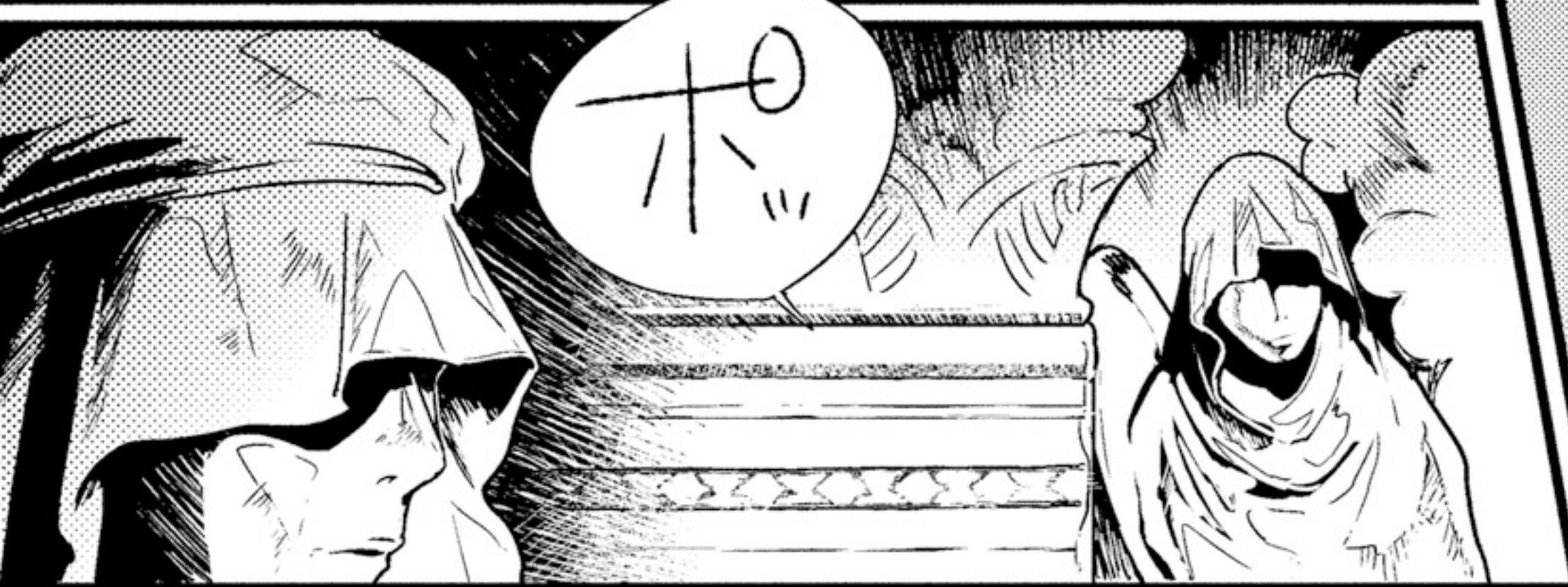
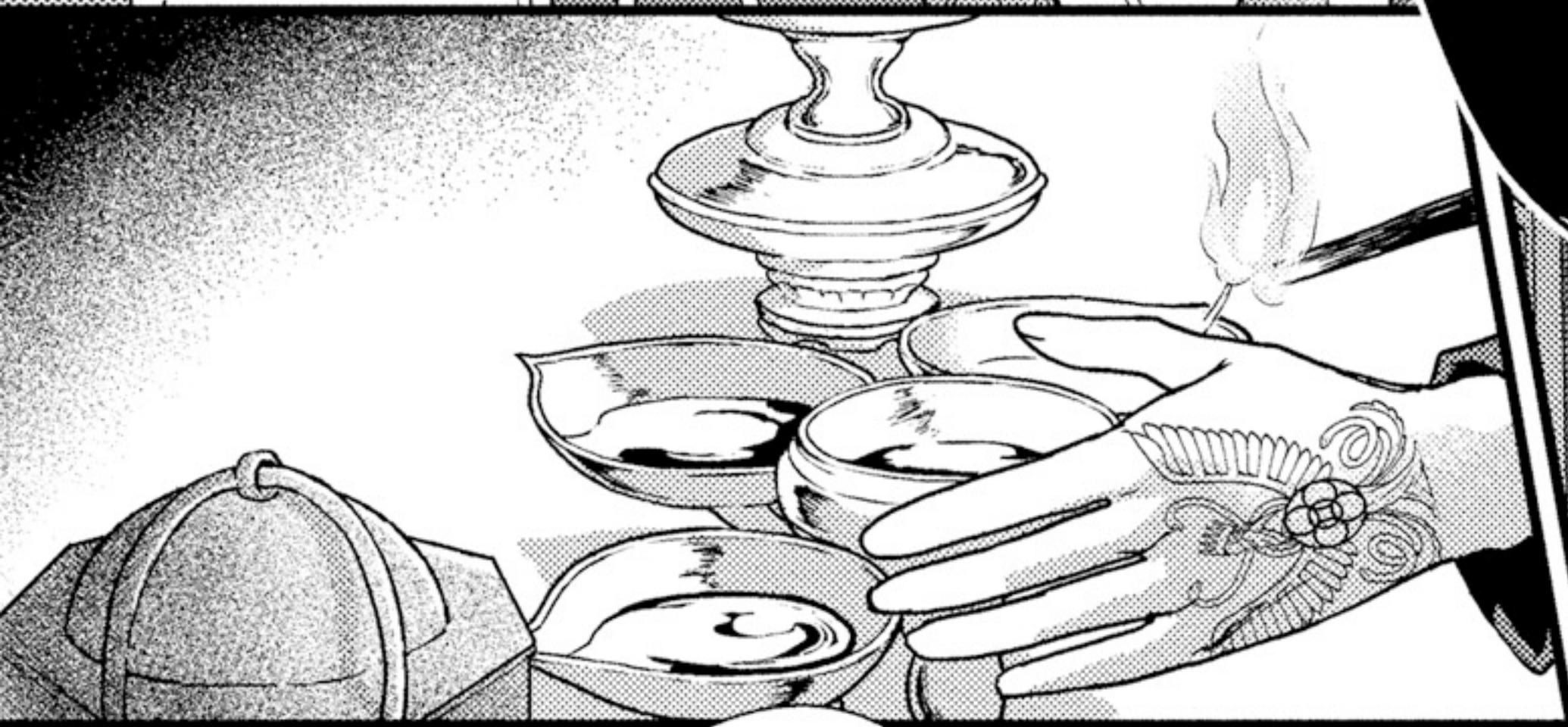
ひどい……

山に捨てられるのと
どっちがいい
夜の間に
獣に殺されるだろうが
どちらでもいいぞ



俺を閉じ込め
るんですか?!

カテドラルなら
人がいない
その声を
どうにかするまで
おまえはそこにいろ



テイクチャーと
同じ模様…?

……ここって
式典に使う部屋？

——あつ
話しかけるんだった…

あの
カテドラルって
式典に使う
聖堂ですか？

あれはオーア神だ

テイクチャーは
オーア神を模している

ヒュー…

…あれ？

もしかして
俺の気分で
『声』の大きさが
変わるのかな？

それなら
話すのと同じ小ささに
することもできるかも…

そうしてくれ

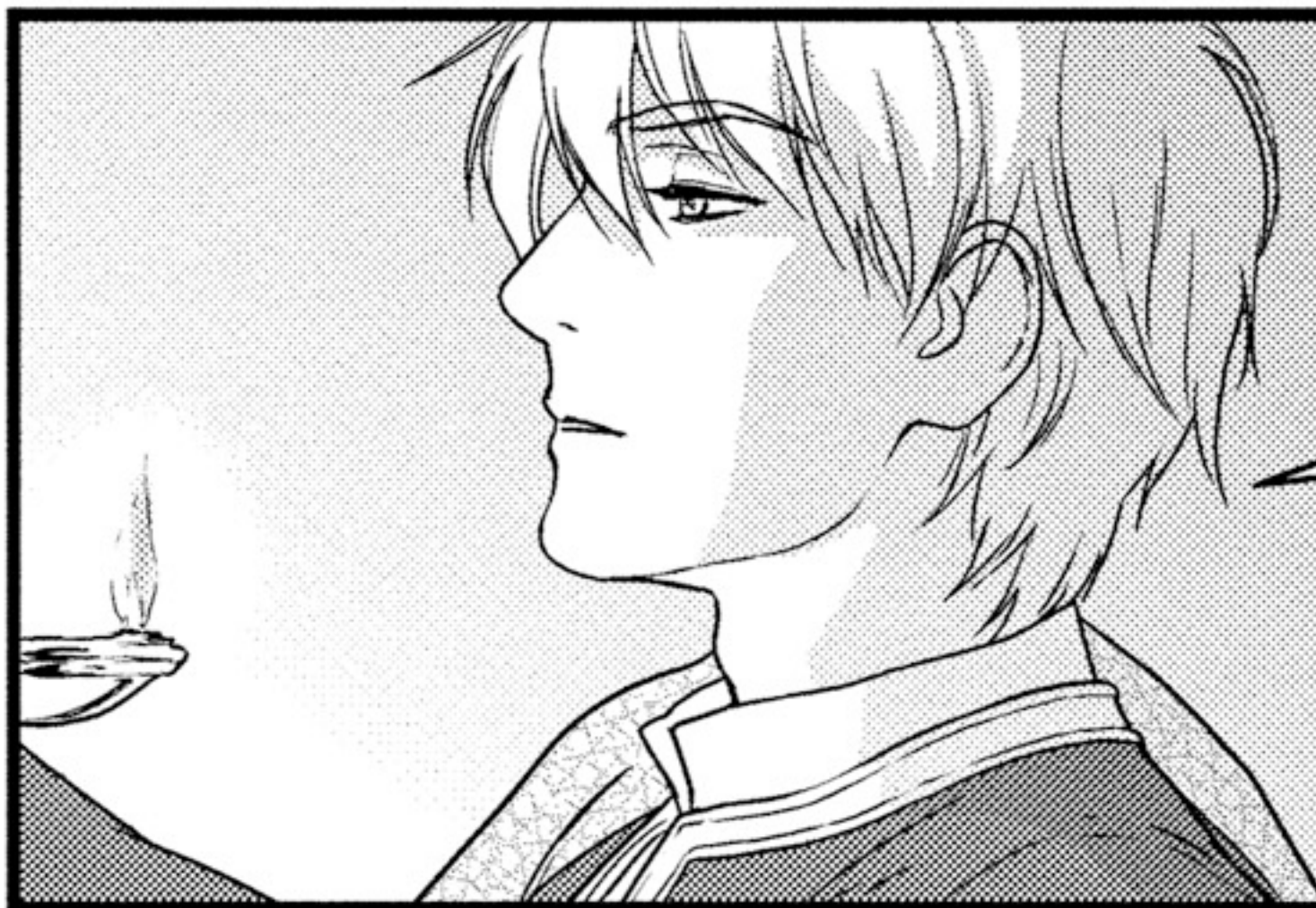
セーブルの
従えていた術師は
普通と変わらず
会話することができていた

おそらく意志で
相手に聞かれたくない言葉も
隠すことができたはずだ

本当ですか！

その術師の方はなんと
おっしゃるのですか？
これをどうにかする
方法をご存じでしょうか

残念だが
黒の術師はとうに
亡くなっている



火がなくなったら
外の兵に言って
持ってこさせろ

食事はルリに運ばせる
飢えはしないだろう



……ひとりになるの？



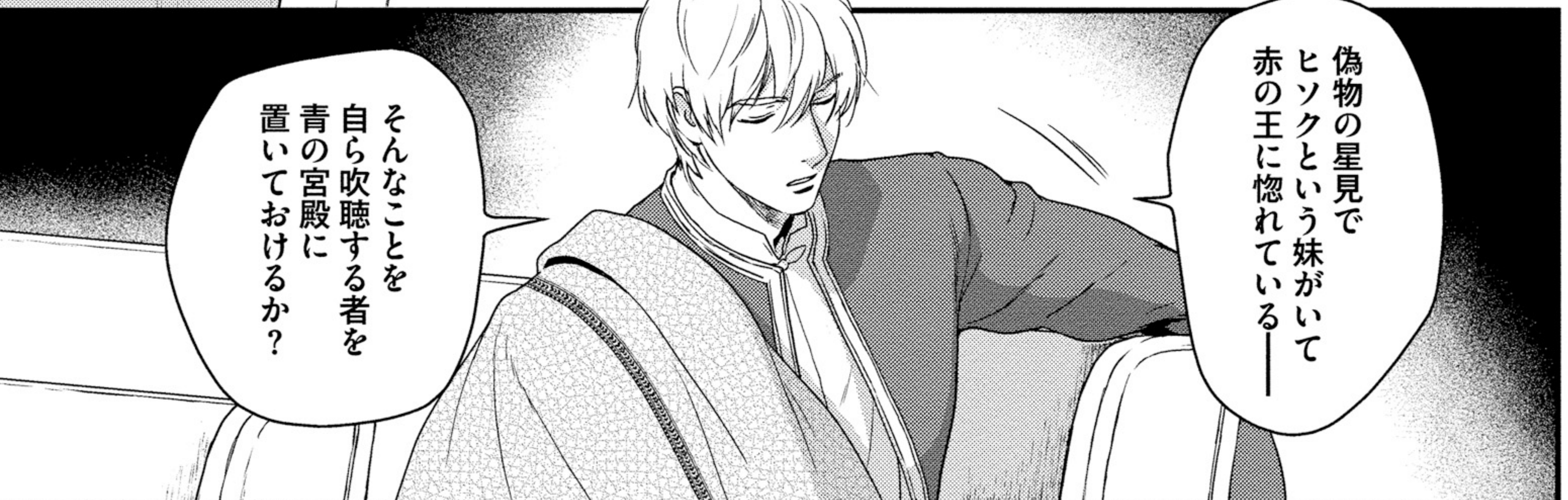
考えていることを
『声』にせずにはいられたら
宮殿に戻ってもいい

早く習得できるように
努力するんだな



偽物の星見で
ヒソクという妹がいて
赤の王に惚れている――

そんなことを
自ら吹聴する者を
青の宮殿に
置いておけるか？





ギル

はっ

シアンに
殺されたいのか

あれは私のことを
愛しているからな

青の王に
不敬をはたらこうと
する者がいれば
容赦なく殺そうとする



キクッ

……!!

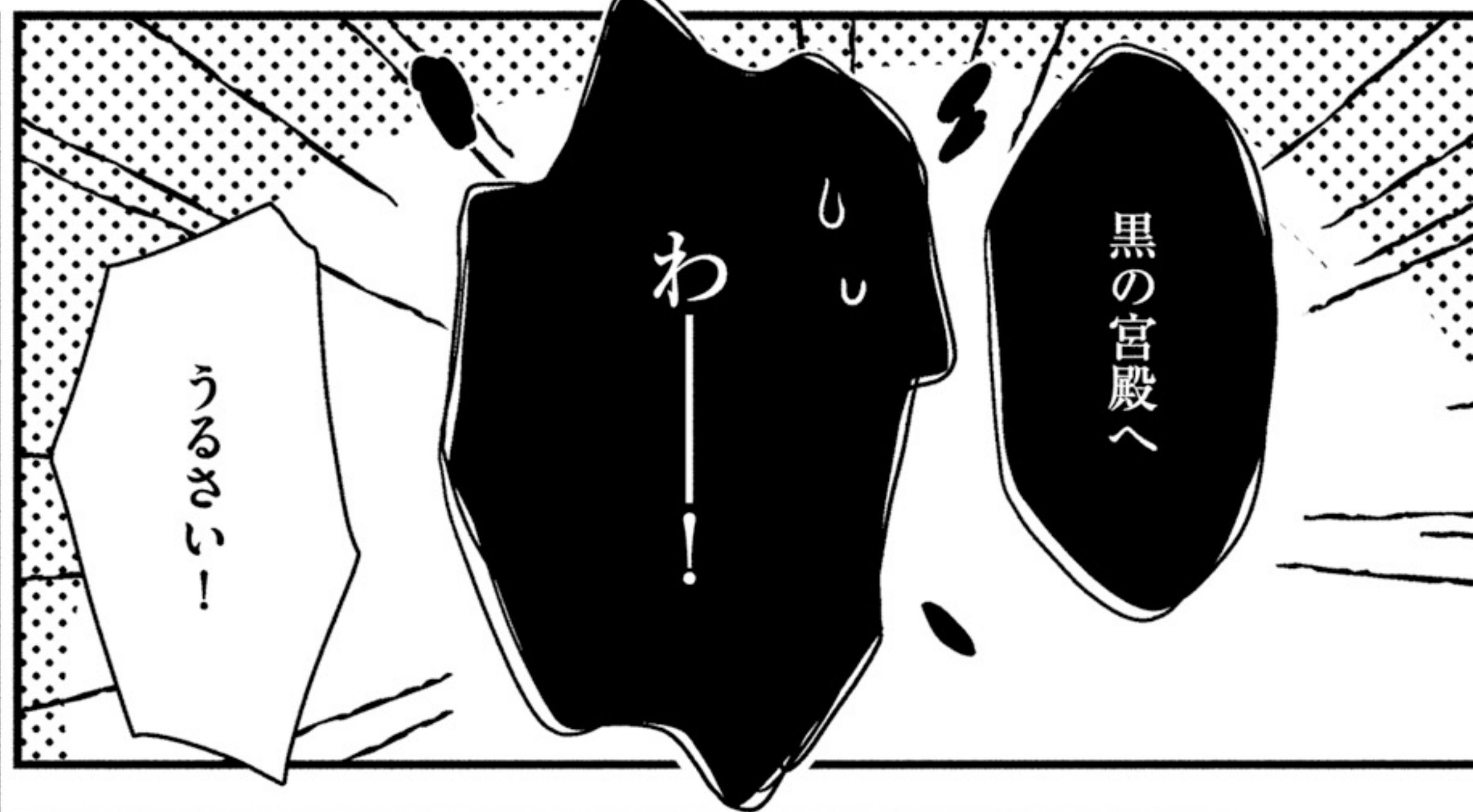
どうせおまえには
それ以外にも
まだ隠しごとが
あるだろう?



俺だって声を
小さくしようと
しています!

どうにかしたいのは
俺のほうなんだから
そんな風に
言わなくてもいいのに

もっと努力しろ



黒の宮殿へ

わ

うるさい!



…おまえの「声」は
頭に響くんのだ

せめて普通に
しゃべってくれ

